令和２年１０月１２日

美咲町教育委員会
教育長　黒瀬　堅志　殿

評価者　佐々木　勇
（美作大学生活科学部）

「美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」に関する所見

Ⅰ　はじめに

この報告書は、平成２９年度より始まった５カ年計画の「第２次美咲町教育振興基本計画」の中間点になる点検・評価に関する報告書であり、学校教育や社会教育、文化、スポーツ等の教育分野全般にわたって、具体的な取組や成果と課題が示されている。今までの３段階評価から５段階評価にして分かりやすくするなど、点検と評価や分析をすることによって、学校や家庭・地域とが連携し、よりよい美咲町の子どもたちの未来を拓くために、着実に施策を推進しようとされたものである。これらを見ると、次第に成果が出ているのではないかと思われる。

しかし、これからの時代はグローバル化の進展により、社会構造が大きく変化してきているので、不易と流行を大切にしながらも、ある程度の思い切った刷新が求められるものと考えられる。

Ⅱ　教育委員会の組織及び活動について

教育委員会の定例会議は、毎回十分な時間をかけて審議や協議がされている。教育行政の重点目標及び施策、人事、施設管理をはじめ、多くの議題が検討されてきている。

また、岡山県教育委員会・美作地区市町村教育委員会研修会などの研修会等に積極的に参加し、県内外の教育情報について識見を深めるなど、意識の向上に努めている。今後も、引き続き関係部局との連携を一層深めて事務の執行や企画立案がされると、さらに成果が期待されるものと思われる。

Ⅲ　教育委員会が管理執行する事務について

１　基本的・総務的事務

教育行政重点施策の策定等、基本方針の多くを事務局が原案や資料を作成し、協議や審議が行われている。

町内の全小中学校を小中学校一貫教育校に指定し、義務教育期間９年間に一貫性のある教育を研究・展開することについては、柵原地域では義務教育学校の創設についての協議がされている。異学年間や小中学校間での児童生徒の交流ができたり、早期の教科担任制の導入ができたりするものと思われる。また、一体化することにより、教職員間の問題行動等における詳細な情報交換ができ、問題行動や不登校の解消についても期待される。町内では地域の実態もあり、併設型や連携型の学校や学年制も考えられるが、いずれにしても教室や学びの場を変えることによって、子どもたちや保護者や地域が変化していくことが期待される。

２　人的管理に属する事務

教職員の人的配置については、津山教育事務所や町部局との連携を取りながら、学力向上や支援を要する児童生徒等の、課題解決に向けた取組ができているように思われる。また、教職員の指導力向上に係る研修も、教育委員会職員のリーダーシップに

より、指導･助言が行われての研修になっている。教職員の多忙化等による「働き方改革」が言われているが、ワークスタイルプランの策定や音声ガイダンス付き電話対応など、働き方改革の環境づくりが大きく進展したことは評価される。

特別支援教育については、特別支援を要する児童生徒の増加により、教育充実のためにいろいろと工夫･改善が行われている。本町でも、県費だけでなく町費による配置が行われているが、担任と支援指導員との効果的な連携が望まれる。それには、管理職によるリーダーシップが強く求められる。

Ⅳ　主要事業の点検評価について

1　学びプラン

(1) 学力向上

岡山型学習指導のスタンダードによる授業改善の働きかけもあり、学力向上の成果が次第に出てきているようである。秋田の教育を見ても、過去問題や類似問題等に目を向けるのではなく、同僚性に基づく研修を大切にしているから、相乗効果や波及効果となり、自然と学力向上につながっていったのではないかと思われる。

落ち着いた学校生活を送るために、Q-UからＩ-check へと検査の仕方を変えてきているが、どの調査であっても学力と知能とのクロス分析をするなどして、実践例の取組の研修を深めると、学力向上のみならず不登校や問題行動の解消にもつながるものと考えられる。家庭学習の習慣形成は、量よりも質の向上を目指して、家庭学習の仕方や方法・考え方を明確にすると、大きな成果が期待されるのではないか。

(2) 健全育成

あいさつ運動の推進や基本的生活リズムの向上、そしてスマホ等の対策の推進については、きめ細かな取組がされているが、成果がなかなか現れていない。保護者や地域が、どのように子育てに関わっているかということにも関連することなので、他の部局とも連携して家庭教育の充実に一層取り組んでいただきたい。

(3) 読書推進

就学前児童の読書推進の方策は大いに評価される。早期からの読書推進は、読書に親しむ環境づくりにつながるとともに、人材育成につながるものと期待される。町内にある三カ所の図書館では、コロナ禍にもかかわらず、図書館の活用に努めている。このことが、児童生徒の図書館利用や、イベントの参加につながっているものと思われる。さらに、図書館や学校図書の利用については、移動図書館車の導入も考えられるのではないか。児童生徒のみならず、高齢者の図書の利用も考えられるので、移動図書館車が学校を訪問したり、コミュニティハウスなどに定期的に訪問したりすると、かなりの利用が見込まれるのではないか。

2　つながりプラン

(1) 学校支援

「みさきスタイル子ども応援事業の効果的な推進」については、どの事業ともかなりの成果が見られる。それは、事業担当者のきめ細かな取組の成果と思われる。成果と課題にもあるように、スタッフの減少傾向や、新たな支援員等の協力体制が課題ということであるが、高校・工業高等専門学校・大学、さらには企業による地域での貢献活動のメセナ活動等にも呼びかけると、意外な効果が出ることが期待される。また、時には開催場所を固定しないで、公民館とか野外会場での開催も考えられる。

今後は、地域と学校が相互にパートナーとして連携･協働して行う「地域学校協働活動」がより一層重要なものとなってくる。そのためには、学校が支援や協力を求め

る一方向の依頼ではなく、地域や保護者への学校だよりやホームページなどによる、双方向の情報発信が重要である。

(2) 地域学習

地域での子どもから大人までの交流の機会を広げる地域学習は、「地域に愛着を持った子どもの育成」「地域の教材･人材の活用」で、大きな成果が見られる。副読本の活用は、地域を知る大きな情報源となる。特に美咲町への転入教職員対象の「町内巡り」は重要なものである。教師自身が、町内のことを知らずに教育をすることはできない。町内のことを知り、地域の実態をまず知ることから学校教育の教育効果が上がるものと思う。

(3) 住民交流

地域住民の交流を深める文化･スポーツ活動は、成果を上げているのが感じられる。このような事業について、公民館や図書館・コミュニティハウスなどの掲示板等に紹介するのは効果的である。しかし、高齢者の方にもよく分かる拡大した掲示物や、期日が過ぎた掲示物の張り替え等にも気を付けないと、興味関心は半減するものと思われる。

3 夢育みプラン

(1) 夢育て支援

グローバル化に伴う国際化に向けての取組が、ALT の充実や小学生対象のイングリッシュキャンプの実施、中学生対象のニュージーランド短期留学など、充実した各種講座等が開催されていることが大いに評価される。また、キャリア教育の充実については、早期から教育活動全体を通して推進されており、成果発表会を行ったり、各総合支所などに掲示されたりしているのが、大変効果的である。

(2) 子育て支援

ゆめの広がる子育てを支援する子育て支援は、各分野で成果を上げているのが感じられる。安全・安心では、兵庫県教委が作成した『EARTH ハンドブック』は、幅広い対応が読み取れるので、危機管理対応に十分活用できるものである。

(3) 生きがいづくり

明るく生きがいを持って生活できる環境を作る、生きがいづくりについて、どの講座や事業、環境づくりにも大きな成果を上げている。文化施設や体育施設を訪問しても照明が明るく、またグラウンド整備もよくされている。

V おわりに

令和元年 12 月に盛り込まれた GIGA スクール構想では、３年間で児童生徒が１人１台のコンピュータ端末の整備をするというものであったが、その後、令和２年度内で整備されようとしている。また、AI 等を利用した学習教材、ICT 環境の整備が急速に導入されつつあるので、この対応も早期にしなければならない。

『第２次美咲町教育振興基本計画』の項目に基づいての、教育委員会事務の点検･評価ということであったが、分かりやすく、成果と課題も次年度への取組が明確になっていた。今後は文章のみでなくグラフや表作成によって、さらに分かりやすく方向性が明確になってくるのではないかと思われた。

『第２次美咲町教育振興基本計画』は、これから検討され、新しい基本計画が策定されるが、関係機関とも協議・調整をしていただき、新しい時代に対応した『第３次美咲町教育振興基本計画』の作成が期待される。